

<TOPICS> 生き物の「声」に耳を澄まそう！



sunshine
aquarium

株式会社サンシャインエンタプライズ

左：アクアゲスト コミュニケーション部 鶴見 綾さん
右：アクアゲスト コミュニケーション部 大澤 康平さん



Q.1 なぜ最近、サンゴが絶滅の危機に？

A. 近年の大規模な白化現象の影響で、サンゴが減少しています。特に2024年の夏は例年より水温が高く、水深の浅いエリアに生息するサンゴなどが大きなダメージを受けました。白化が長引くとサンゴは死滅し、サンゴ礁の生態系そのものが失われる恐れがあります。

Q.3 サンゴ以外の生き物も影響を受けているの？

A. はい。例えばペンギンはとても大きな影響を受けており、海水温の上昇で餌場が変化し数が減少しています。水族館で人気のカワウソも生息環境の悪化や乱獲、ペット需要の影響で個体数が大きく減り、国際的にも保護が求められています。

Q.2 水族館ではどんな取り組みをしているの？

A. サンシャイン水族館は2006年から「サンゴプロジェクト」を展開し、育てたサンゴを海へ還す活動など、サンゴ礁の再生を願いサンゴの保全に取り組んでいます。また、サンゴが直面している危機的状況なども発信し、環境課題に対する啓発活動にも力をいれています。限られた環境の中でも飼育技術を高め、未来へつなぐ努力を続けています。

Q.4 私たちにできることは？

A. 自分にとって身近な生き物で構いませんので、まずは「知ること」「調べること」「学ぶこと」から始めましょう。「かわいい」や「癒し」を入口に、やがて環境や生態系の問題に気づくことができます。知ること、環境を「自分ごと」にする大切な第一歩です！

詳細はこちら



サンシャイン水族館の取り組み

2006年よりサンシャイン水族館が沖縄県恩納村と連携し、サンゴ保全活動「サンゴプロジェクト」を推進しています。サンゴ礁の再生を願い、サンゴを殖やす活動のほか啓発活動にも力を注いでいます。

学生が
書いた！

大正大学コラム

豊島区環境清掃部は、平成22年度より大正大学と協定を締結し、環境教育関連事業を行っています。今回は事業の一環として、学生さんに「エコのわ」35号のテーマである「としまの環境教育」についてコラムを作成していただきました。

どんなところに自然環境がある？

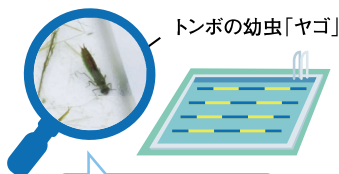
＼身の回りの環境を探してみよう！／

池袋本町電車の見える公園



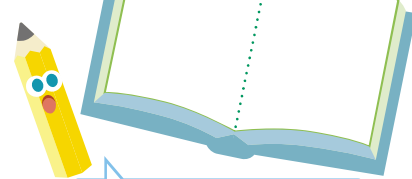
地域の人の活動によって作られ、整備された自然環境

使用していないときの学校のプール



使用していない間は、野生生物の住処に！

生きものを探してここに描いてみよう！



こんなところにも生きものが！？

身の回りの自然環境と触れあってみて 社会共生物学部！さん

私は実際に、池袋本町電車の見える公園で行われた植樹や木を整える活動、小学校のプールでのヤゴ救出活動に参加しました。地域の人の手によって管理されている樹木や、季節の移り変わりとともに姿を現す生きものに直接触れ、普段無意識に目にしている自然環境がこうした活動によって守られていることを学びました。しかし、現在はこうした活動が人手不足や自然への興味関心の薄れによって減少してきています。多様な自然環境を守る方法は、いろいろあります。皆さんもぜひ身の回りの自然環境に目を向け、自分なりの守る方法を見つけてみてください！

ご意見・ご感想・エコ情報をお待ちしております



アンケートはこちら

豊島区ホームページよりアンケートにご協力をお願いいたします。

エコのわ アンケート 🔍 で検索

左記2次元コードからもご回答いただけます。(アンケート受付期間 令和8年9月まで)



バックナンバーはこちら

「エコのわ」第35号 令和7年10月1日発行

発行：豊島区環境清掃部環境政策課 〒171-8422 豊島区南池袋2-45-1
電話：03-3981-2771(直通) FAX: 03-3980-5134 メール: A0029180@city.toshima.lg.jp
掲載されている記事・写真・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。



第35号は「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の助成事業です。